

旧山陽道「矢掛宿」の街並みを復活!

～住まいのまちなみコンクール最高賞受賞～



「住まいのまちなみコンクール」では、優れたまちづくり活動を展開している住民組織を毎年表彰しています。第8回となる今回は国土交通大臣賞を「備中矢掛宿の街並みを良くする会」が受賞され、中国地方では初の受賞となりました。

<備中矢掛宿の街並みを良くする会について>

「備中矢掛宿の街並みを良くする会」は1992年、古民家の再生、景観整備により来訪者にとって矢掛宿をさらに魅力あるものにし、住民にとっても一層誇れるまちなみに整備することを目的に発足されました。景観整備に当たり住民の理解と協力を得て93年から2007年にかけて、自主改修を含め75軒の景観整備関連事業を推進してきました。

矢掛宿には本陣・石井家と脇本陣・高草家が国指定重要文化財として現存しています。本陣・脇本陣が顕在し、共に国の重文になっているのは全国でも矢掛宿だけです。古民家再生景観整備によりまちなみが復元され、往時の宿場町の姿をしるのぶことができますようになりました。

当会が発足して以来20年間、「花いっぱい運動」を展開しています。まちなみ沿いにフラワーポットを設置。四季折々の花苗を129軒に配布して、沿道の住民が管理することで、良質な景観を維持しています。その結果、住民のまちなみへの思いが深まり、まちなみとして一体感が醸成されてきています。

また、まちなみ景観を損なわないよう側溝上に物を置かないことを励行し、吸い殻一つ落ちていない「花のあるまち」「ゴミのないまち」を合言葉にまちなみ美化に努めています。美化活動と景観整備はおもてなしの心に通じるとしています。そこで、自分たちが住むまちを愛する子供に育ってほしいとの思いで、児童の総合学習としてまちなみを散策し、矢掛宿の歴史・文化・まちなみが紹介できる子供観光ボランティアの取り組みも続けています。また長年の懸案事項である無電柱化の実現に向け、努力を続けています。

昔からいつの時代もその土地固有のまちなみは人々を魅了し、旅心をそそぎました。矢掛宿のまちなみは江戸時代からの古い家屋が数多く残り、全国に誇るべき宿場町として後世に残すべきと考えているそうです。

今後、歴史的・文化的まちなみを後世に継承できる活動を推進するため、コンクール受賞記念セミナーを開催し、受賞を機に一層精進し、住民・来訪者の心が和むまちなみ形成に努力していくそうです。

ちなみに、無電柱化事情をヒアリングしましたところ、この地区で無電柱化はまだ行われていません。しかし、矢掛町役場の方をはじめ、住民の方々も無電柱化にはかなり前向きに考えられています。その前向きな姿勢がいつの日か実を結ぶといいですね!



日本の電柱・電線社会の現状について感じていることをエッセイとして綴り、お送り下さい。本会報の【随想】欄に掲載させていただきます。1000～1500文字、簡単な自己紹介(お仕事、住所等)とポートレート(顔写真)を添えて下さい。投稿をお待ちしています! 事務局 井上、山岡 info@nponpc.net

私達が住む日本の空を、みんなで美しい空へ!

美空 ~MISORA~

第58号

発行日:2013年6月25日(火)

発行者:NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク

理事長 高田 昇



《活動報告》2013年5月31日理事会 (COM計画研究所)

◆技術開発委員会:井上(了)理事

タイガースポリマーさんとのつながりで、光栄さんがD-DBOXに興味。そういった会社を交えて意見交換会をしたい。内容は、各社が持っている技術の紹介、具体的な無電柱化モデル地区を設定して、従来の手法と新手法の比較検討を行う、従来技術の改善点の洗い出しを行う、新技術の推進や改良についての意見交換を行う、「NPOモデル」として、新たな無電柱化の手法をまとめる。対象として大事なのはメーカー。2か月に1回を目安に開催。東京で住友林業さんがD-DBOXに興味を抱く。入会も検討中。

◆世論形成委員会:長谷川副理事長

連絡協議会の具体的な内容はこれから。対象・目的を明確にして趣意書を作る。セミナーに来ていただいた方や個人的に参加したセミナー等で誘ってみる。今度の総会で配れる段階にしておきたいので趣意書を総会前に完成させる。事業計画は、荒関さんが作成している事業計画書でおおむねOK。

◆事業協力委員会:井上事務局長

新しく入会された全農林さんへコスト削減を提案した。従来と比べると4、5百万円安くなる。材料も提案した材料を使うとのこと。←荒関理事の会社を紹介。今後も地中化はしていきたいとのこと。見附市にもコスト削減を提案。これも何千万円安くなる予定。今後は成功報酬型も考えていきたい。7月1日に東京でいろんな関係者を集めて討論予定。

白馬村について、図面を送っていただいたが断面図はまだない。調査費ができれば現地に行ける。福知山は電線類地中化検討委員会が立ち上がる。大阪府の担当者が、御堂筋の景観改善についての相談で5日の15時に事務局に来局。小池百合子氏はもう一度連絡を取る。

◆東京活動委員会:井上事務局長

3つの委員会があったが1つにする。埼玉の会員の高山さんが熱心な方で、事例研究をしないかと提案。山形県的设计会社で法人会員の小方さん、提案活動をしていただく。事務局の山岡さんには世論形成として自治体へ働きかけていただく。次回は6月25日の予定。

◆6月の総会の件:井上事務局長

プログラムはこれで良い。

◆その他:

理事の増強について、NPOの成長と比例して理事も成長するべき。理事の若返り化は必須。理事になるには総会での承認が必要。会員の増強について、興味があってやる気がある人なら誰でも理事になってもよい。

◆7月度の理事会の日程

7月26日(金)18時からCOM計画研究所にて開催。





【特集】電線類地中化に対する 政党アンケート



電線類地中化を
早急に進めよう！

◆参議院選挙を控え、各政党の取り組みをアンケートしました。

各政党に次の二つの質問をお出しし、回答をいただきました。

[質問1]:電線類地中化に対する今後の考え方・方向性。

[質問2]:マニフェストへの「電線類地中化」に関する言葉・項目の組み込みの有無。

以下が各政党の解答です。(回答のなかった政党もあります。)

・ 自民党

[回答1]・・・わが国の無電柱化は、我が党政権下の、昭和61年度から3期に亘る「電線類地中化計画」、平成11年度～平成15年度の「新電線類地中化計画」、平成16年度～平成20年度の「無電柱化推進計画」に基づき進めてきました。

平成21年度以降は、「無電柱化に係るガイドライン」に沿って、引き続き無電柱化を進めていく予定でしたが、政権交代により方向性が不明確な形となりましたので、今後、適宜必要な検討を行って参りたいと思います。

その際、東日本大震災により改めて問題として浮上した公共インフラの災害からの復旧、および福島第一原子力発電所事故に伴う各電力会社の経営基盤の弱体化も含め、総合的な見地からの議論が求められると考えます。

[回答2]・・・現在、参議院選挙公約について党内で議論している最中であり、その内容については現時点では回答を差控えさせていただきます。

・ 民主党

[回答1]・・・民主党政権下において「無電柱化にかかるガイドライン」に沿って、無電柱化を推進してきました。今後も推進します。

[回答2]・・・申し訳ありませんが、マニフェストは現在作成中のため、明確な返事ができません。

・ 日本維新の会

[回答1]・・・回答を控えさせていただきます

[回答2]・・・同上

・ 日本共産党

[回答1]・・・地中化は、望ましい施策と考えます。しかし、自治体・住民の負担が大きい場合があります。大切なことは、観光立地や防災まちづくりなど明確な目的を持って取り組むことです。そうでない場合は、自治体の財政状況を考慮して、自ずと施策としての優先順位が出てくると思います。住民の理解が大切です。

[回答2]・・・前回の総選挙政策の各分野政策の「7. 震災対策・防災」の中で、「災害に強いまちづくり、国土づくりをすすめます。」と入れました。今回の参院選挙の公約にも反映させます。

・ みどりの風

[回答1]・・・防災の観点からも電線類地中化、無電柱化を進めるべきです。

[回答2]・・・マニフェストに具体的に書き込むかについては今後検討して参ります。

・ 生活の党

[回答1]・・・電線類地中化については、景観政策及び防災対策の両面から是非国の責任において推進していくべき重要な対策として認識しております。まず、景観政策的見地から申し上げますと、我が国の景観を考えた場合、「致命的な存在」が電柱、電線、鉄塔であり、これらがあるが故に風景全体が台無しになっているという面が否定できません。一方、ヨーロッパなどでは電線類地中化が元から進んでおり、景観的にはかなり優位にあると言えます。観光面からも、この問題にしっかりと対処していかないといいけません。また、防災面からも電柱がバタバタと倒れてくるような街づくりは望ましくありません。したがって、この問題についてはできるだけしっかりと取り組んでいく必要があると考えております。ただし、直接的な責任のある電力会社は、燃料等の総コストが急上昇している中で、本件について前向きに考えとも考えられませんので、今後財源等について、政策の優先順位付けの中で慎重に検討される必要があります。

[回答2]・・・現在検討中ではありますが、本件も含めて景観政策は重要課題であると認識しております。引き続き御指導宜しくお願い申し上げます。

・ 社会民主党

[回答1]・・・安全で快適な歩行空間の確保や都市景観の向上を図るため、電線類の地中化を図る必要性が高い道路区間において、道路の地下に電線を共同して収容する、いわゆる電線類の地中化については、積極的に推進すべきものと考えています。大規模公共事業については、費用対効果や事業の必要性・緊急性から大胆に見直すべきですが、電線類地中化のような、地域や生活に密着したものや、安全・安心にためもの、環境関連の公共事業については、積極的に取り組むべきと考えています。

[回答2]・・・今国会で道路法改正案が成立し、緊急輸送路などの無電柱化に対する国・自治体によるきめ細かなインフラ整備等を支援するための交付金を充実し、「身近な公共事業」を推進します。

【まとめ】

どの政党も電線類地中化は必要な施策であるとの見解です。ただ、どの政党も電線類地中化を必要な施策と認識しているだけで、実際には後回しされているようにも感じられます。電線類地中化は短期的にみるとコストがかかり、工事期間も長いので弊害を感じられるかも知れませんが、長期的に見てみると景観や安全面での問題を解決してくれるので、ぜひ各政党には電線類地中化に向けて政策を実施していただきたいですね♪

「美空」に載せてほしい事、調べてほしい事などがありましたら info@nponpc.net までお送り下さい！ 皆様のご意見、お待ちしております！ tel:072-653-5811 Fax: 072-653-5833

電線地中化に関するコラム・情報を月2回メールマガジンで配信しています！ ぜひこちらも登録下さい！ → <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>



ホームページでも、最新情報を詳しく掲載していきます。 <http://nponpc.net/>
フェイスブックは [こちら](http://www.facebook.com/NPONPC) : <http://www.facebook.com/NPONPC>